

令和3年2月8日

世田谷区立笹原小学校
校長 後藤 真司 様

世田谷区立笹原小学校学校関係者評価委員会
委員長 鈴木 聡志

令和2年度 学校関係者評価委員会報告書

1 はじめに

令和2年度世田谷区立笹原小学校学校関係者評価委員会は、世田谷区教育委員会作成「世田谷区立学校 学校評価システム」に基づき、本校の取組の成果について評価し、ここに報告する。

本報告書作成に用いた資料は次の通りである。

- ・ 児童アンケート（対象は5・6年生）
- ・ 保護者アンケート
- ・ 地域の方々アンケート
- ・ 学校評価（自己評価）
- ・ 学校公開期間中の授業見学
- ・ 学校行事の見学
- ・ 委員が学校を訪問した際の非公式な教員との会話と授業見学

2 重点目標について

令和元年度の学校関係者評価を受け、校長は今年度の3つの重点目標を設定した。それらは以下の通りである。

- 自ら主体的に考え、探求的・体験的な学びを通して、適切に判断し、表現する子どもを育てるとともに、学力の向上を図る。
- 自らすすんで運動する子どもを育て、体力の向上を図る。
- 幼・保・小・中及び家庭・地域社会と連携・協働し、地域とともに子どもを育む。

学校関係者評価委員会は重点目標がどの程度達成できたかを確かめるため、児童アンケートと保護者アンケートと地域の方々アンケートに独自の評価項目を作成して調査を行った。その結果は表1の通りである。数値は「とても思う」と「思う」の合計（％）である。

重点目標「自ら主体的に考え、探求的・体験的な学びを通して、適切に判断し、表現する子どもを育てるとともに、学力の向上を図る。」に関する質問項目の結果は、児童による評価よりも保護者による肯定的な回答が10％近く低い。保護者は子どもたちの主体的な学びをあまり評価していないようだ。

重点目標「自らすすんで運動する子どもを育て、体力の向上を図る。」に関する質問項目の結果は、保護者アンケートで肯定的な回答が8割を超えた。

重点項目「幼・保・小・中及び家庭・地域社会と連携・協働し、地域とともに子どもを育む。」に関する質問項目の結果は、ほとんどの項目で肯定的な回答が8割を超えた。学校と家庭・地域との連携・協働による子育ては概ね達成されていると言ってよいだろう。

表1 3つの重点目標に関する評価項目の結果

評価項目	「とても思う」と「思う」の合計 (%)
重点項目：自ら主体的に考え、探求的・体験的な学びを通して、適切に判断し、表現する子どもを育てるとともに、学力の向上を図る。 私は、めあてをもって学習に取り組み、「振り返り」を次の学習に生かそうとしている。(児童アンケート) 子どもたちは、めあてをもって学習に取り組み、「振り返り」を次の学習に生かそうとしている。(保護者アンケート)	77.9 67.5
重点項目：自らすすんで運動する子どもを育て、体力の向上を図る。 私は、外ですすんで身体を動かして遊んでいる。(児童アンケート) 子どもたちは、外ですすんで身体を動かして遊んでいる。(保護者アンケート)	74.8 82.5
重点項目：幼・保・小・中及び家庭・地域社会と連携・協働し、地域とともに子どもを育む。 私は、友達・家族・地域の方々・教職員と元気よくあいさつしている。(児童アンケート) 子どもたちは、友達・教職員・家族や地域の方々と元気よくあいさつしている。(保護者アンケート) 家庭・地域・学校は協力して子どもたちを育てている。(保護者アンケート) 子どもたちは、元気なあいさつができています。(地域の方々アンケート) 家庭・地域・保護者は、協力して子どもたちを育てている。(地域の方々アンケート)	82.7 73.6 83.4 84.6 87.2

3 独自の取組について

昨年度から学校関係者評価委員会は笹原小学校独自の取組を評価の対象とすることになっている。昨年度の結果を踏まえ、言語活動、笹の子班活動、新しい教育活動の3つを取り上げることとし、児童アンケート、保護者アンケート、地域の方々アンケートの独自項目を作成した。また今年度は新型コロナウイルス感染症への対応があったため、感染症予防のため取組についても独自項目を作成した。その結果は表2の通りである。数値は「とても思う」と「思う」の合計 (%) である。

言語活動について尋ねた質問項目では、児童・保護者ともに肯定的な回答が7割台だった。

た。読書以外のことに興味がある子どもがいることを考えると、過半数の子どもが読書を楽しんでいることは、本校の取組の成果として評価できる。

笹の子班活動には、児童・保護者とも8割以上が肯定的な回答をした。

新しい教育活動については、保護者・地域の方々ともに肯定的な回答の割合が低い。今年度は学校公開が分散型で実施されたため、保護者にとってはやや授業を参観しにくくなったので、本校の新しい教育活動を目にする機会が少なかったかもしれない。また保護者と地域の方々には笹原小学校が取り組んでいる新しい教育活動が周知されていない可能性があるため、広報やホームページを使って本校の教育活動を積極的に知らせるのがよいと思われる。

感染症予防の取組では、児童・保護者ともに肯定的な回答が9割を超えた。

表2 笹原小学校独自の取組に関する評価項目の結果

評価項目	「とても思う」と「思う」の合計 (%)
言語活動	
私は、朝読書など読書活動を楽しんでいる。(児童アンケート)	73.2
子どもたちは、読書活動を楽しみ、読書に親しんでいる。(保護者アンケート)	78.7
子どもたちは、読書活動を楽しみ、読書に親しんでいる。(地域の方々アンケート)	59.0
笹の子班活動	
笹の子班活動を通して、上学年や下学年の子どもたちと仲よくなったり、楽しく活動したりすることができている。(児童アンケート)	81.1
笹の子班活動は、子どもたちにとって有意義な活動であると思う。(保護者アンケート)	83.6
新しい教育活動	
本校は、英語や外国語、ICTの活用など新しい教育活動に取り組んでいる。(保護者アンケート)	57.1
本校は、英語や外国語、ICTの活用など新しい教育活動に取り組んでいる。(地域の方々アンケート)	67.6
感染症予防のための取組	
私は、手洗いやマスクの着用など健康に気を付けている。(児童アンケート)	92.9
本校は、感染症の予防等子どもたちの健康に気を付けている。(保護者アンケート)	90.0

4 気になる学年

今年度も学年間で差のある項目があった。ここでも「とても思う」と「思う」の合計(%)で検討する。児童アンケートで5年生と6年生で「とても思う」と「思う」の合計が10%以上の差のあった項目を表3に示す。

独自項目のうち3項目で6年生は5年生より肯定的な回答が10%以上低かった。しかし区作成の項目では多くの項目で6年生は5年生より肯定的な回答が10%以上高かった。6年生は昨年度の学校関係者評価委員会報告書で気になる学年として指摘された学年である（昨年度の5年生）。この学年は独自項目への肯定的な回答の割合が低い、先生の指導には肯定的な回答の割合が高い。授業の仕方を高く評価し、先生との関係もよい。

学校行事について5年生の9割が達成感を感じているのに、6年生は75%しか達成感を感じていない。その理由として、6年生は学校行事における例年より限定的な活躍の機会の中で中心的な役割を担うことが多かったが、最上級学年としての責任感があり、もっと取り組みたいなどの願いも強く、達成感については厳しい評価になったと思われる。

表3 5年生と6年生の回答で10%以上の差があった項目

評価項目	「とても思う」と 「思う」の合計 (%)	
	5年生	6年生
独自項目		
私は、外ですんで身体を動かして遊んでいる。	87.7	61.3
私は、友達・家族・地域の方々・教職員と元気よくあいさつしている。	90.8	74.2
私は、朝読書など読書活動を楽しんでいる。	81.2	62.9
区作成の項目		
先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	69.2	83.8
先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	70.0	82.3
先生は、学校のルールを児童に考えさせて指導している。	76.9	93.5
私は、先生が指導したルールについて理解できる。	69.2	95.2
学校行事は達成感がある。	90.8	75.8
先生は、児童の意欲を大切にしている。	67.7	82.3
自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。	68.9	88.7
先生たちは、ていねいに指導してくれる。	73.4	93.5
先生たちに相談できる。	61.9	83.9
私は、家庭で宿題やその他の学習をしている。	86.2	72.1

保護者アンケートでは6年生の保護者の「本校の教育活動に満足している。」への肯定的な回答が61.5%で、全学年の中で最も低かった。過半数は本校の教育活動に満足しているのでこの結果を過大視すべきではないが、6年生の保護者の満足度が他学年より低いことが、コロナ禍によって特別な教育活動となった今年度に限ってのことなのか、6年間で振り返った総合的な評価なのか、または別の理由によるものなのか、機会があれば一考していただきたい。

5 総合所見

今年度の重点目標には数値目標が設定されていないので、肯定的な回答の割合が7割以上を目標達成の目安とすると、重点目標に関する質問項目のほとんどが7割を超える肯定的な回答を得たので、重点目標はほぼ達成されたと言える。今後も重点目標の見直しとその達成に取り組んでいただきたい。

本校独自の取組は良好な成果を上げている。笹の子班活動は今後も続けていただきたい。ただ取組の中には保護者と地域の方々にあまり知られていないものがあるので、教育活動を広く知らせることが必要だろう。

昨年度本委員会が「気になる学年」として指摘した学年は今年度成長が見られた。最上級生としての自覚が出て、よい学校生活を送ったようだ。

昨年度本委員会が課題の一つとして指摘した学校運営・学校経営については改善が見られた。中でも学校運営委員会は今年度、キャリア教室や漢字検定を主催するなど、活発な活動を行った。委員会内に3つの部を設けるといった組織上の工夫もあった。学校を支える組織の一つとして来年度以降もその活動に期待する。

笹原小学校学校関係者評価委員会委員

石原 千都 大貫 恵美子 小澤 利喜男
黒河内 倫子 鈴木 聡志 二村 比佐子
(五十音順)

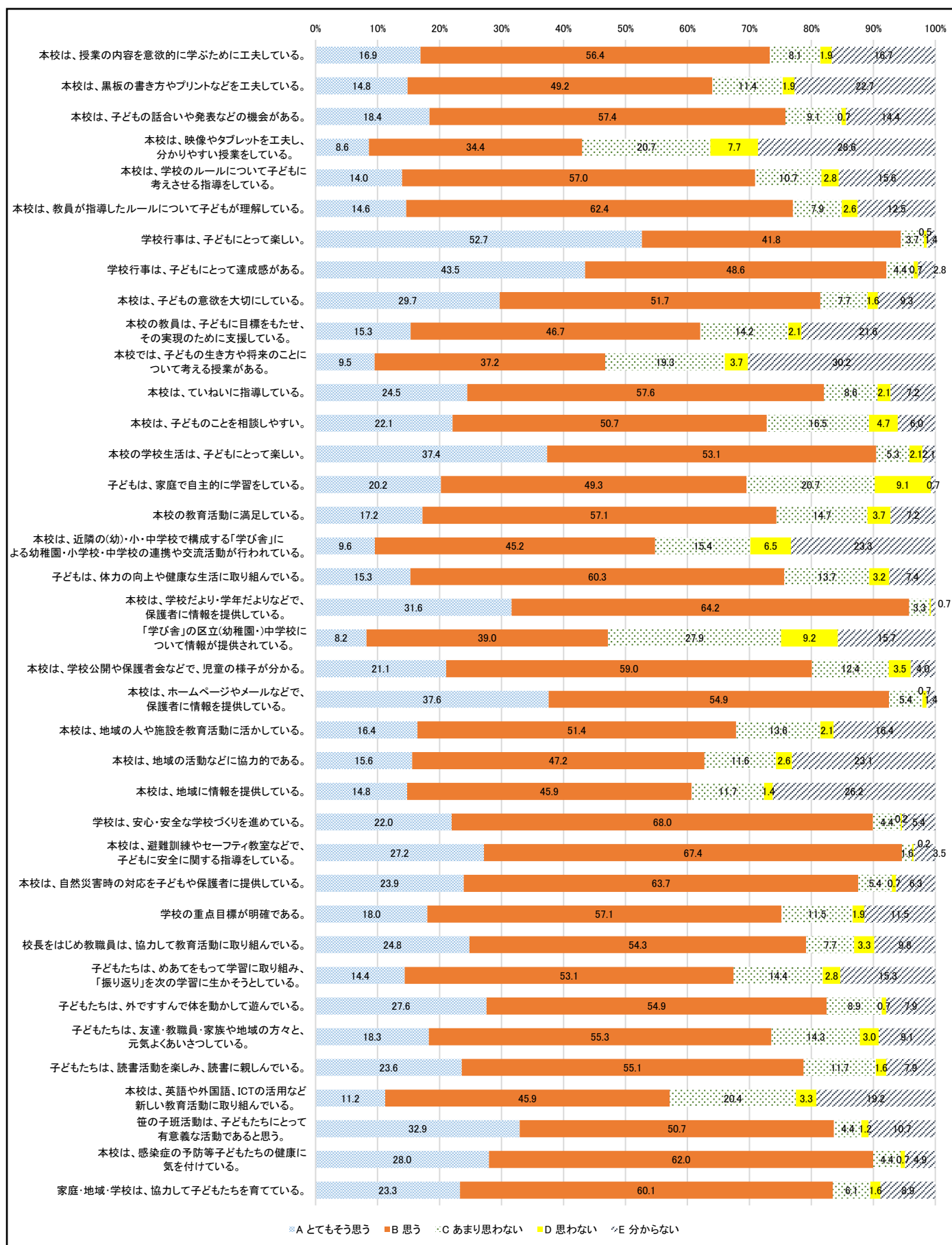
(事務局) 遠藤 修 境野 孝徳 大橋 佑基

<参考資料>

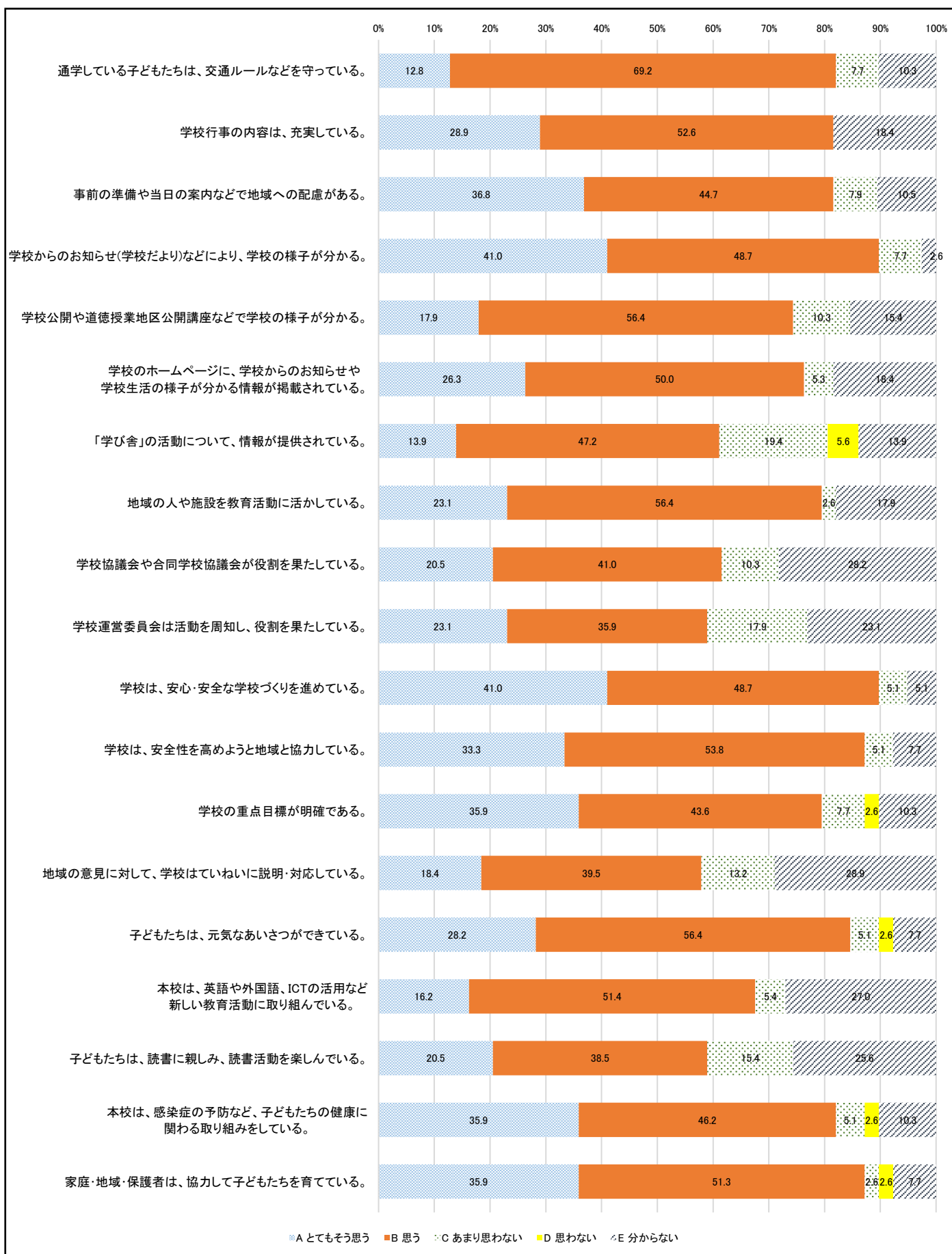
学校評価アンケートにご協力をいただき、誠にありがとうございました。
回収率については下記のとおりで、今年度も多くの皆様から貴重な回答をお寄せいただきました。委員一同、感謝申し上げます。

対象者	配布数 (実施数)	回収数	回収率(%)
児童(5・6年)	133	127	96(%)
保護者	474	435	92(%)
地域の方々	66	39	59(%)

<参考資料>保護者アンケートの回答分布



＜参考資料＞地域アンケートの回答分布



＜参考資料＞児童アンケートの回答分布

